

# ベトナムの牛肉需給を めぐる最近の状況



平成26年11月4日（火）

独立行政法人農畜産業振興機構  
調査情報部 木下 瞬

# ～ 本報告の構成 ～

- 1 ベトナムの概況
- 2 ベトナムの食肉消費
- 3 ベトナムの牛肉生産
- 4 ベトナムの牛肉流通
- 5 ベトナムの牛肉輸入
- 6 まとめ～今後の見通し



ハノイの路地

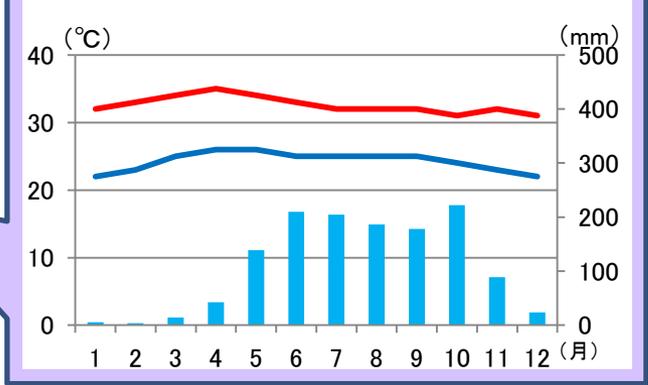
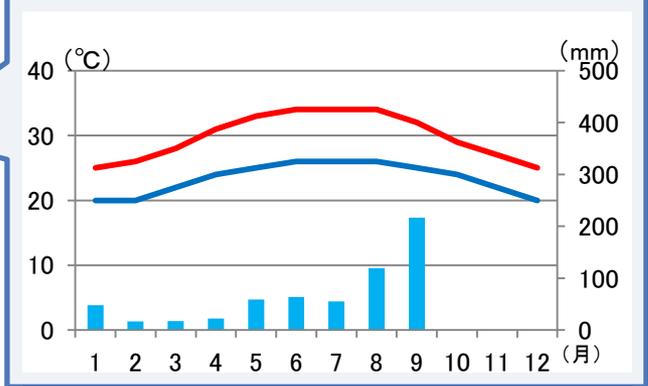
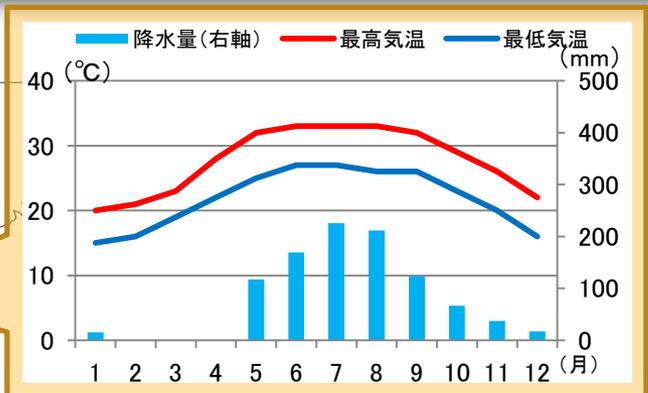


ホーチミン・シティの夕方

# 1 ベトナムの概況

## 地域区分と気候

### ベトナムの地域区分



ベトナムは、熱帯モンスーン気候に属し、国土が南北に長い為、地域によって気候が大きく異なる。

ハノイが属する北部は、四季もあり、5～10月はかなり蒸し暑くなるが、12～4月は肌寒い季節となる。

ダナンが属する中部は、雨季が9～1月で乾季が3～8月となり、8～10月は台風の襲来が多い。

ホーチミンが属する南部は、平均気温が26℃ほどで、雨季が5～10月、乾季が11～3月となる。

資料：alic作成

# 1 ベトナムの概況

## 経済指標等

### ASEANにおけるベトナムの地位（2013年）

	ベトナム 	ASEAN における地位 
人口(百万人)	89.69	3位
国土面積(km <sup>2</sup> )	331,200	4位
名目GDP(百万米ドル)	170,565	6位
一人当たり名目GDP(米ドル)	1,901	—

資料：国際通貨基金（IMF）「World Economic Outlook Database October 2014」

### 農業の位置づけ（2013年）

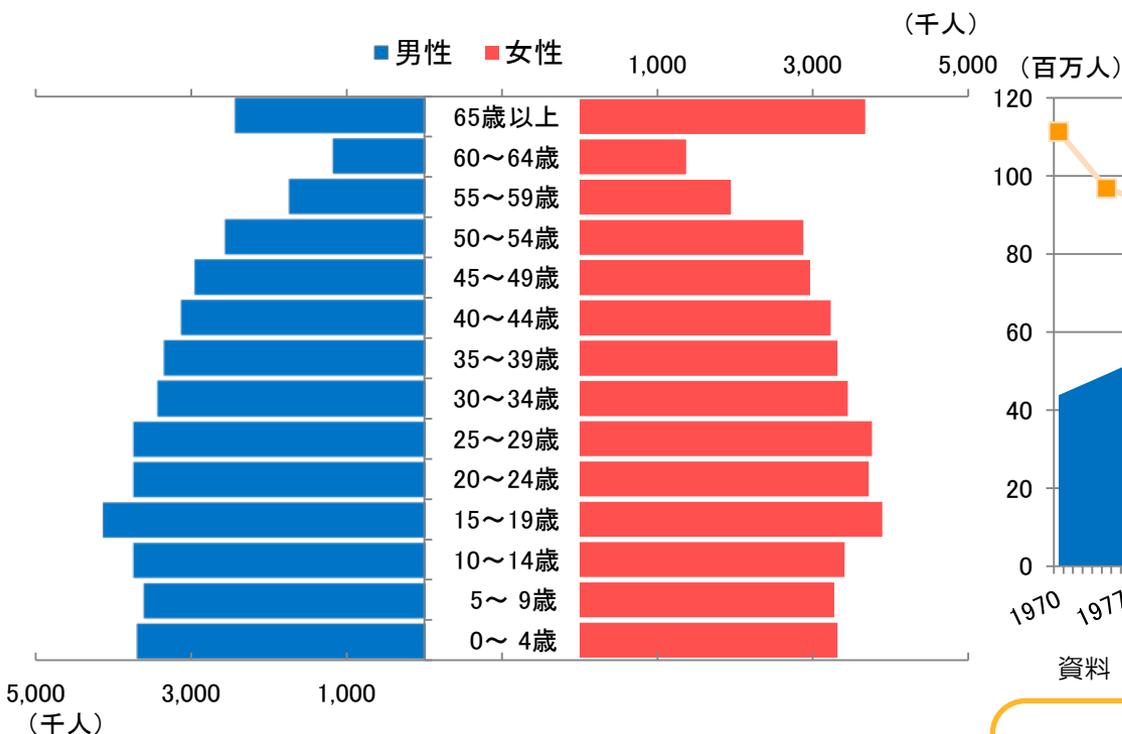
	ベトナム 	日本 
GDPに占める農業の割合	18.4%	1.2%
就業人口に占める農業の割合	46.8%	3.7%
国土に占める農用地の割合	35.0%	12.5%

資料：アジア開発銀行（ADB）「Key Indicators for Asia and the Pacific 2014」

# 1 ベトナムの概況

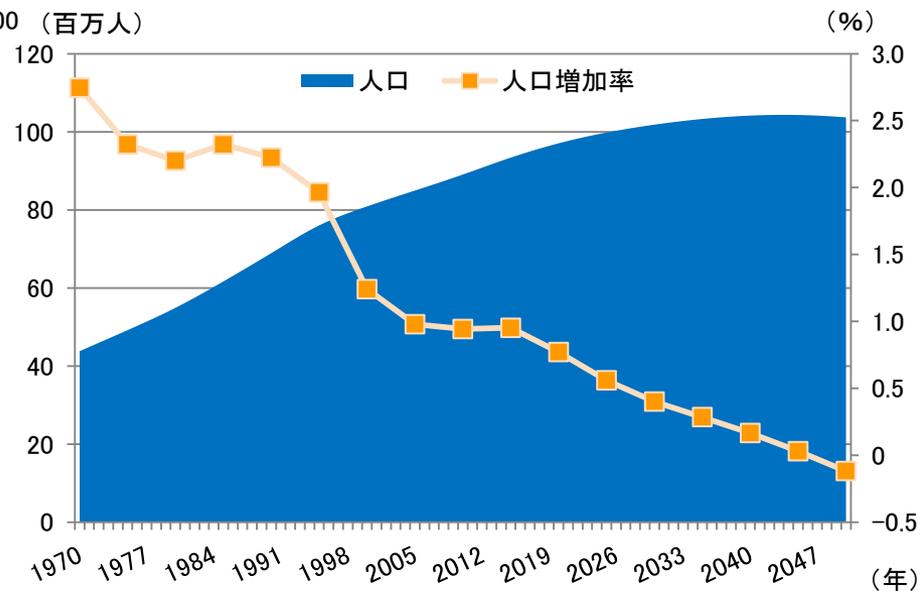
## 人口増加

### 人口ピラミッド（2011年）



- 若い年齢層が多く、その層の規模は大きい

### 人口と人口増加率の推移と見通し



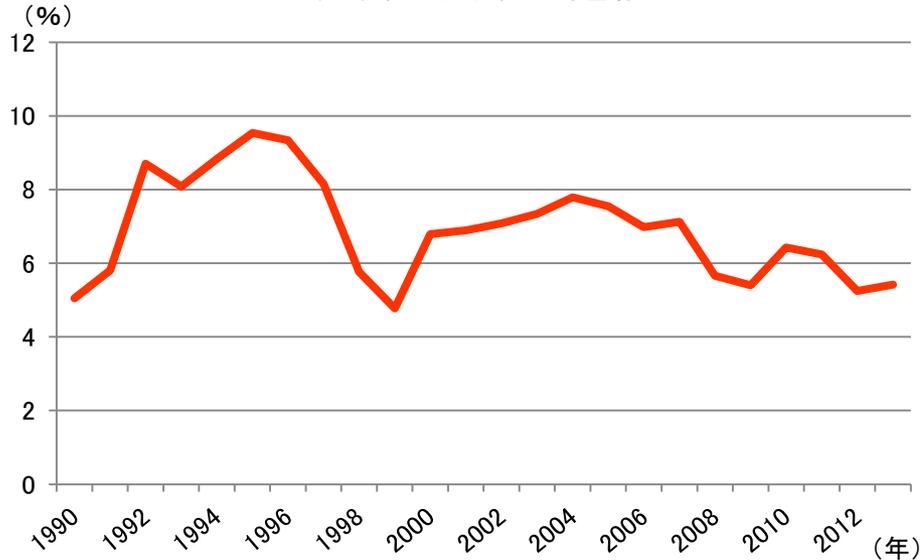
- 2026年に人口1億人を超える見通し（しかし、人口は2045年に頭打ちとなり、その後は緩やかに減少する見込み）

消費意欲の増大が期待

# 1 ベトナムの概況

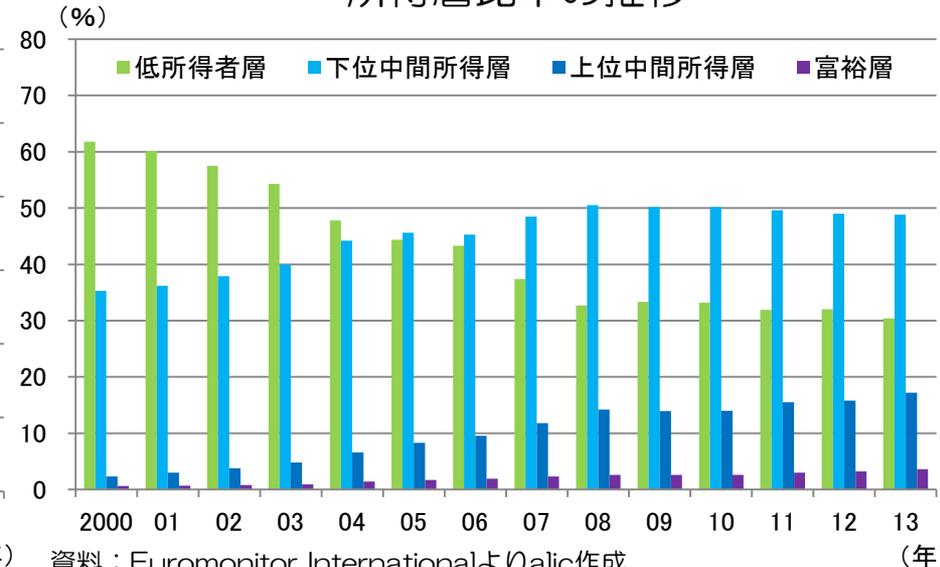
## 所得の向上

### 経済成長率の推移



資料：IMF「World Economic Outlook Database October 2014」

### 所得層比率の推移



資料：Euromonitor Internationalよりalic作成

注：年間世帯可処分所得5,000ドル未満を低所得層、5,000～15,000ドルを下位中間層、15,000～35,000ドルを上位中間層、35,000米ドル以上を富裕層と定義

- 2008～2012年の平均成長率は5.8%
- ベトナムの経済成長は上振れ、下振れが小さく、安定

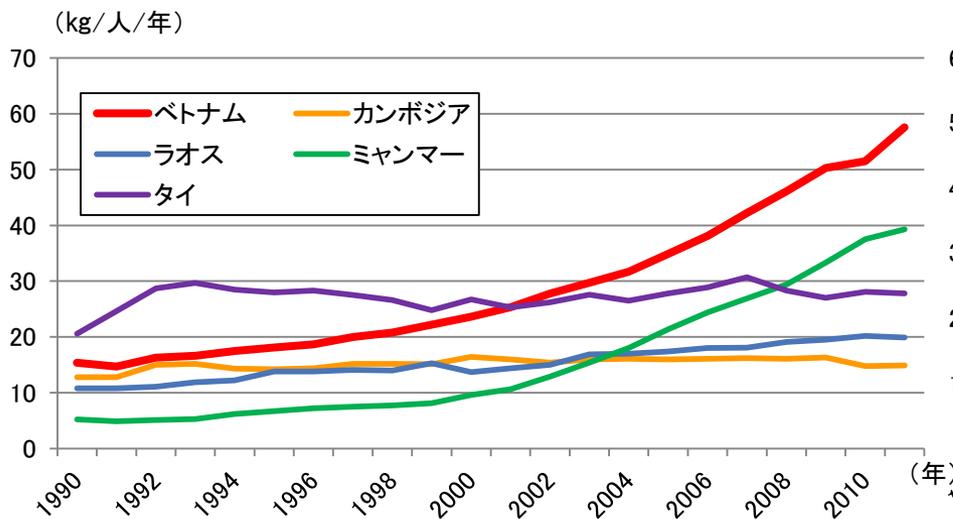
- 2000年以降、中間所得層が増加  
⇒2013年は約1580万人が上位中間所得層、富裕層は330万人と推計

中間所得層の台頭による購買力の向上

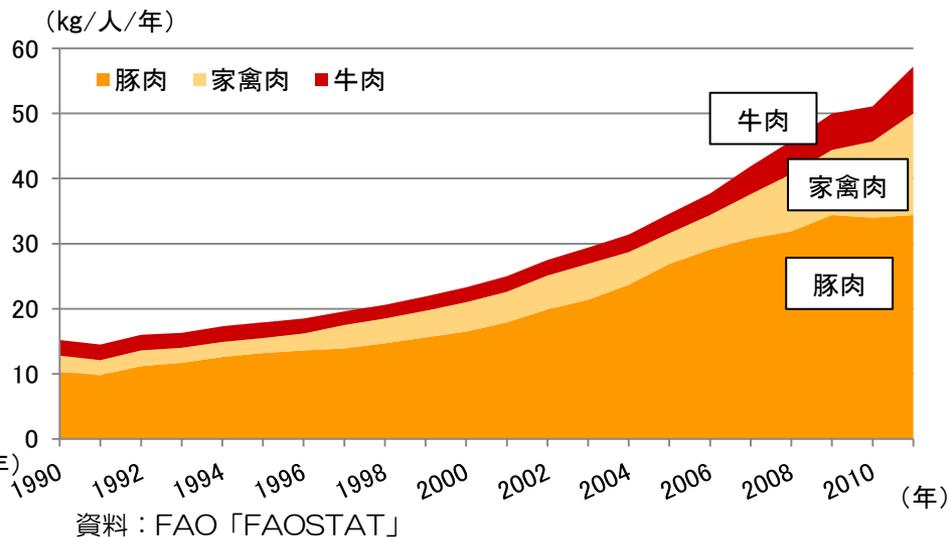
## 2 ベトナムの食肉消費

### 一人当たり食肉消費量

#### ASEAN諸国の食肉の一人当たり消費量の推移



#### ベトナムの食肉消費の内訳



- 2011年のベトナムの一人当たり食肉消費量は、57.6kg
- 周辺国の中で最も食肉消費が多い

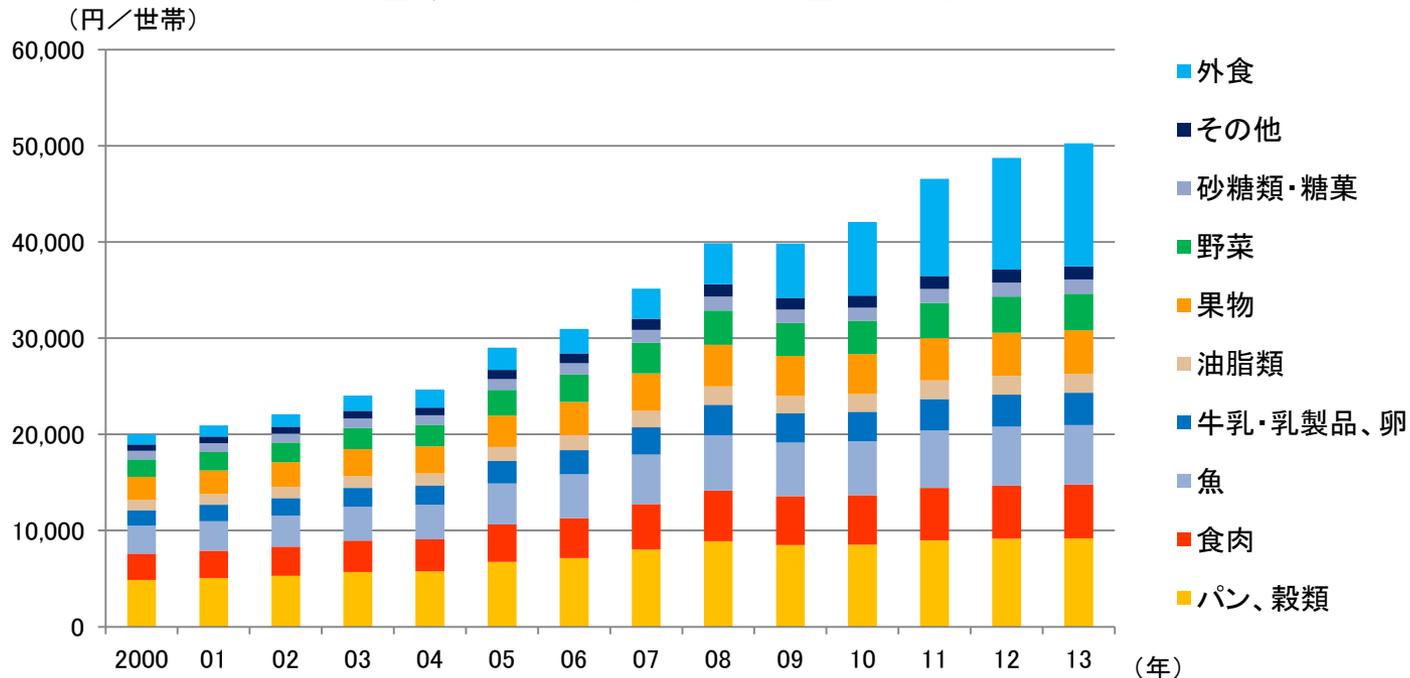
- 食肉消費の中では、豚肉の占める割合が高い
- 豚肉消費は2009年頃から頭打ち。代わりに牛肉、家禽肉の消費が増加

## 2 ベトナムの食肉消費

### 食料費支出

- 食肉への家計支出はここ数年、変化していない  
(2013年は年間5,000円程度)
- 一方、所得水準の向上によって外食への支出額は増加  
⇒ライフスタイルの変化に伴い、外食するスタイルが定着

1 世帯当たりの食料費支出の推移



資料：Euromonitor Internationalよりalic作成

注：支出額は、2013年を基準とした実質額で算出

## 2 ベトナムの食肉消費

### 食肉の消費スポット(外食)

マクドナルド1号店 (ホーチミン)



ロッテリア (ハノイ)



家族向け焼き肉店 (ハノイ)



KFC (ホーチミン)



## 2 ベトナムの食肉消費

### 牛肉の消費形態(外食)

- 近年、ベトナムでは鍋料理が普及
- 輸入牛肉を使った焼き肉やファストフードなども増加



牛肉と野菜炒め



伝統的な麺料理フォー



ハノイの鍋料理



ハンバーガー



米国産牛肉を使った焼き肉（ハノイ）



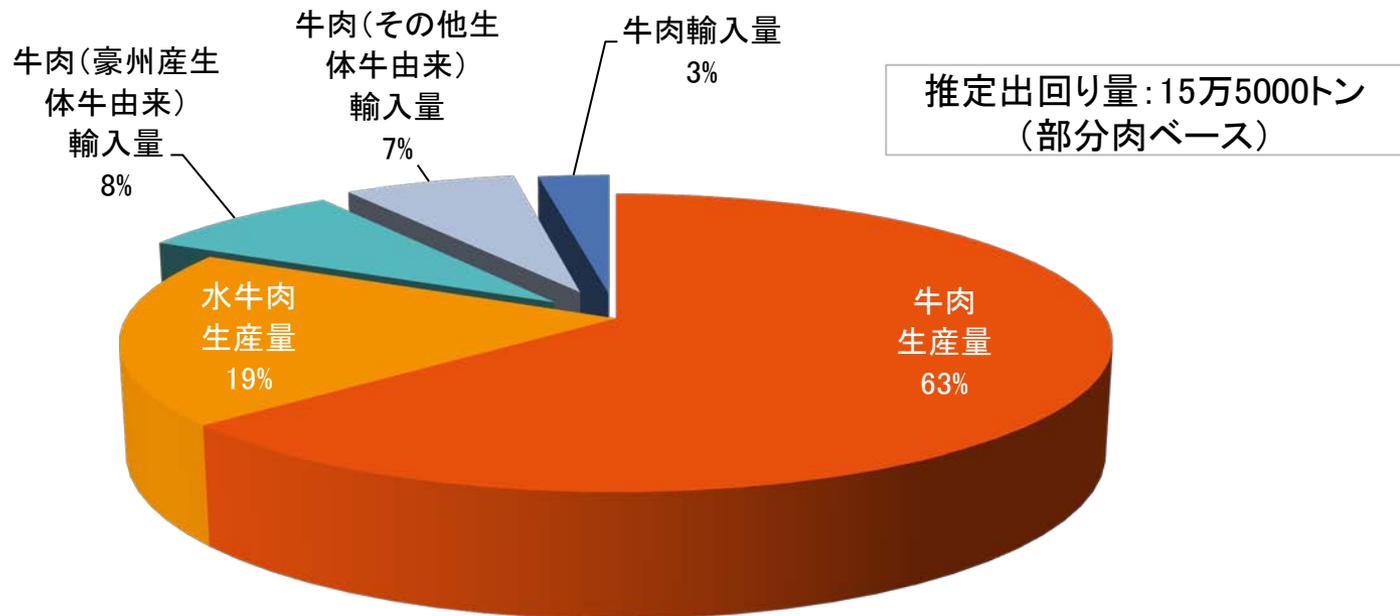
国産牛肉を使った焼き肉（ハノイ）

### 3 ベトナムの牛肉生産

### 牛肉の出回り量

- 2013年の牛肉自給率は、82%（水牛肉含む）
- 輸入牛肉は2012年以降、豪州産生体牛の輸入が増加  
⇒出回り量におけるシェアが増加

牛肉供給量の内訳（2013年）



資料：ベトナム農業農村開発省（MARD）資料、ベトナム畜産協会資料およびGSOよりalic推計

注1：国産牛肉および水牛肉生産量は、と畜頭数に部分肉歩留まり34.5%を乗じて算出。

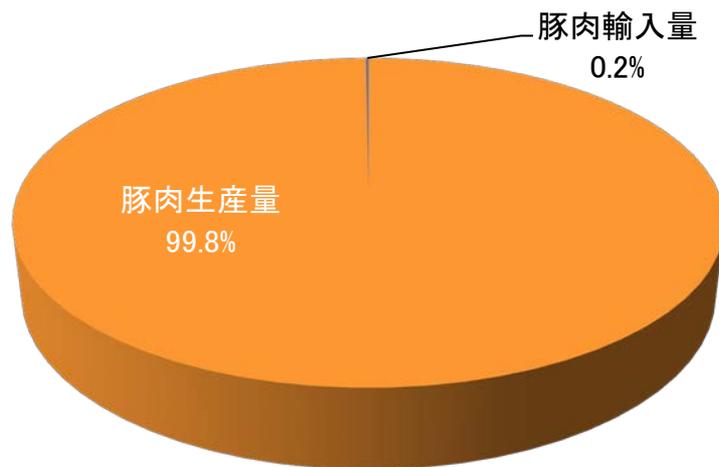
注2：生体牛由来牛肉輸入量は、輸入頭数に生体重（豪州産430kg、他国産300kg）および部分肉歩留まり（豪州産43%、他国産36%）を乗じて、それぞれ算出。

### 3 ベトナムの牛肉生産

#### 豚肉・鶏肉の出回り量

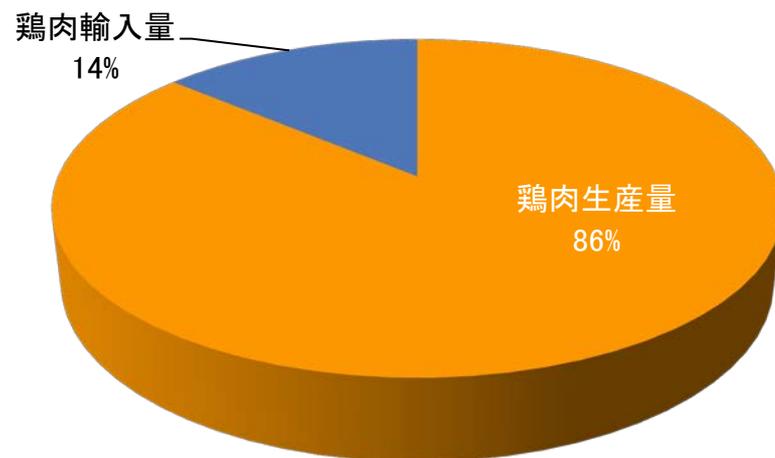
- 2013年の自給率は豚肉が99%、鶏肉が86%
- 豚肉・鶏肉ともに輸出も行う

豚肉供給量の内訳（2013年）



推定出回り量：235万2000トン（枝肉ベース）

鶏肉供給量の内訳（2013年）



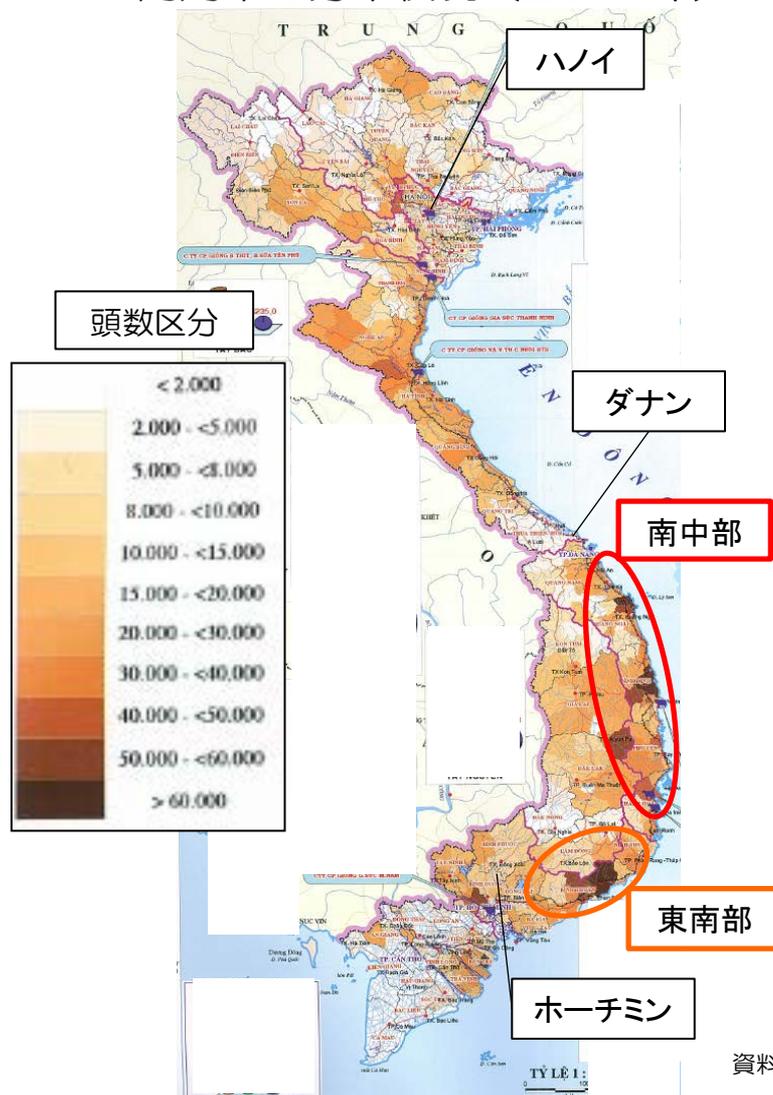
推定出回り量：57万2000トン（可食処理ベース）

資料：MARD資料、ベトナム畜産協会資料およびGSOよりalic推計

### 3 ベトナムの牛肉生産

#### 国内の生産地

肉用牛の分布状況（2007年）



- 飼養頭数が多いのは、南中部や東南部などの沿岸部。このほか、西北部や紅河デルタなどにも分布。
- 肥育牛50頭以上を飼養する農家は、1600戸程度（2005年）。  
⇒大規模農場はハノイやホーチミンなどの都市部周辺に存在。

資料：Atlas of Vietnam Animal Husbandry

# 3 ベトナムの牛肉生産

## 肉用牛の品種と飼養方法

### 主な肉用牛の品種と特徴

	黄牛（在来種）	交雑種（シンディ系）	水牛（大型種）
飼養品種			
特徴	黄褐色で一般的な在来種。強健で耐暑性も高い。農耕用、乳肉兼用でもある。	黄牛とレッドシンディとの交雑でライシンと呼ばれる。耐暑性も高く、増体や産肉量は黄牛より優れる。	主に農耕用の役牛。肉用に供されるのは、廃用牛。
飼養形態	放牧（舎飼いは稀有）		
分布	東南部、南中部、西北部、紅河デルタなど	紅河デルタ、北東部など	北中部、東北部など
出荷月齢	18～24カ月齢	18～22カ月齢	48～60カ月齢
出荷体重	雄：200～250kg 雌：160～180kg	雄：350～450kg 雌：270～300kg	雄：450～500kg 雌：400～450kg
枝肉歩留り	—	50%	43～48%

資料：聞き取りなどを基にalic作成

写真：Atlas of Vietnam Animal Husbandry

注：このほかにも多様な交雑種が存在する。

### 3 ベトナムの牛肉生産

#### 肉用牛生産の特徴

##### ベトナムの肉用牛生産の特徴

- 在来種の黄牛が7割を占める  
⇒海外の肉専用種と比べ、小ぶりで産肉性に劣る牛を飼養
- 1戸当たり飼養頭数は、2～5頭  
⇒国内の9割以上が零細経営で、専門はほとんどない
- 肥育牛は主に乳肉兼用、農耕用としての用途も根強い
- 雄子牛が肥育に回されることは少なく、子牛肉として出荷
- 商業的に生産される場合、生後22～24カ月齢で出荷



##### 給与飼料の特徴

- 放牧主体で自生する牧草、米ぬか、稲わら、キャッサバでん粉粕などを給与  
⇒農場副産物主体であり、飼料コストをあまりかけない
- 濃厚飼料が高価なため、本格的な肥育はあまり行われていない

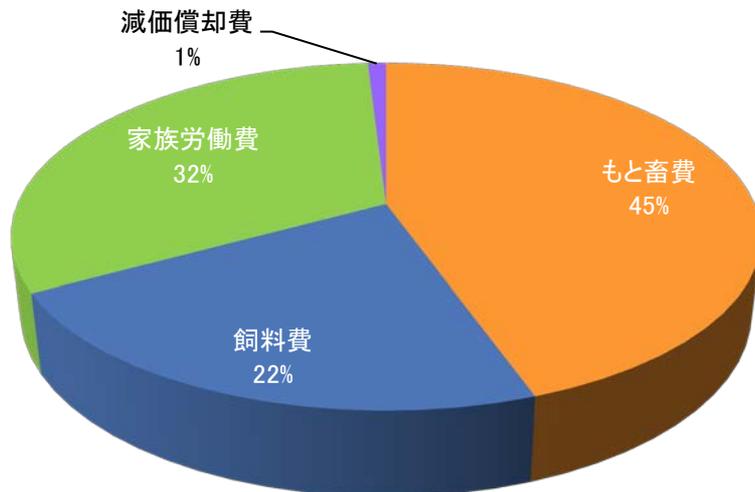


### 3 ベトナムの牛肉生産

国内生産

- 生産費の大部分は、もと畜費と飼料費  
⇒もと畜費は飼養頭数の減少から上昇。飼料費は採草地等の減少から上昇する傾向に

肉用牛生産費の内訳  
(1頭当たり、2010～2012年平均)



生産費: 1頭当たり557万ドン(約2万8千円)

資料: 南ベトナム農業科学研究所 (IAS)

注1: 南中部のサンプリング調査結果

注2: 生産費は1年間肥育させた際の額

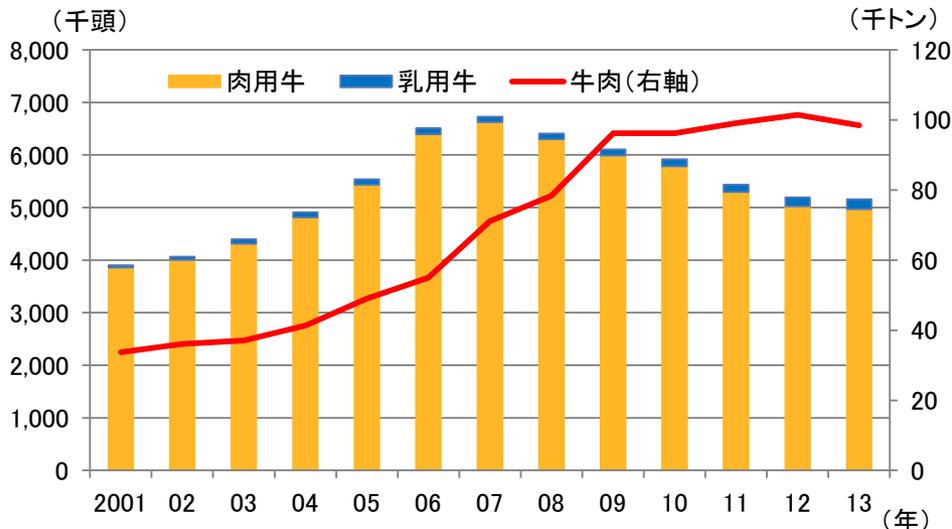


ハノイ郊外の牧草地

# 3 ベトナムの牛肉生産

## 国内生産

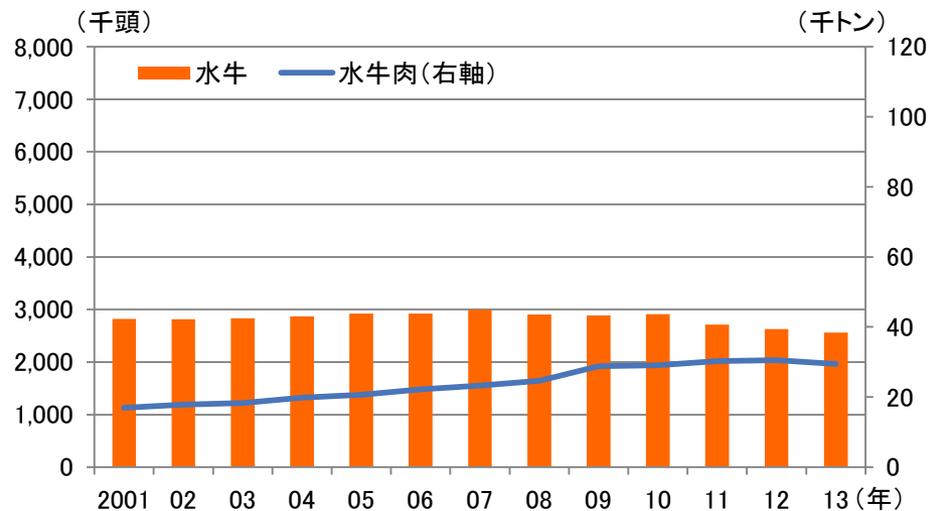
### 牛飼養頭数および牛肉生産量の推移



資料：MARD資料よりalic作成  
注：部分肉ベースで推計

- ・肉用牛飼養頭数は、07年をピークに減少
- ・都市化・工業化の進展により、採草地や放牧地が減少  
⇒飼養スペースの減少と飼料費の上昇
- ・需要の増加による農家販売価格の上昇  
⇒繁殖雌牛の出荷も進む

### 水牛飼養頭数および水牛肉生産量の推移



資料：MARD資料よりalic作成  
注：部分肉ベースで推計

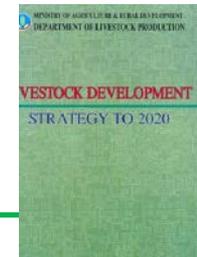
- ・水牛飼養頭数も、07年をピークに減少
- ・農業の近代化の進展により、農耕用としての需要が年々減少

# 3 ベトナムの牛肉生産

## 肉用牛振興政策

### 畜産開発戦略2020

- 2008年に策定された全畜種の増産計画  
⇒社会主義体制のベトナムでは、本戦略をもとに各種支援策を実行
- 2020年までに設定された目標達成が命題  
⇒ただし、5年ごとに目標や対策を見直し  
⇒畜産物生産の量的増加を目指す



### 畜産業再編計画

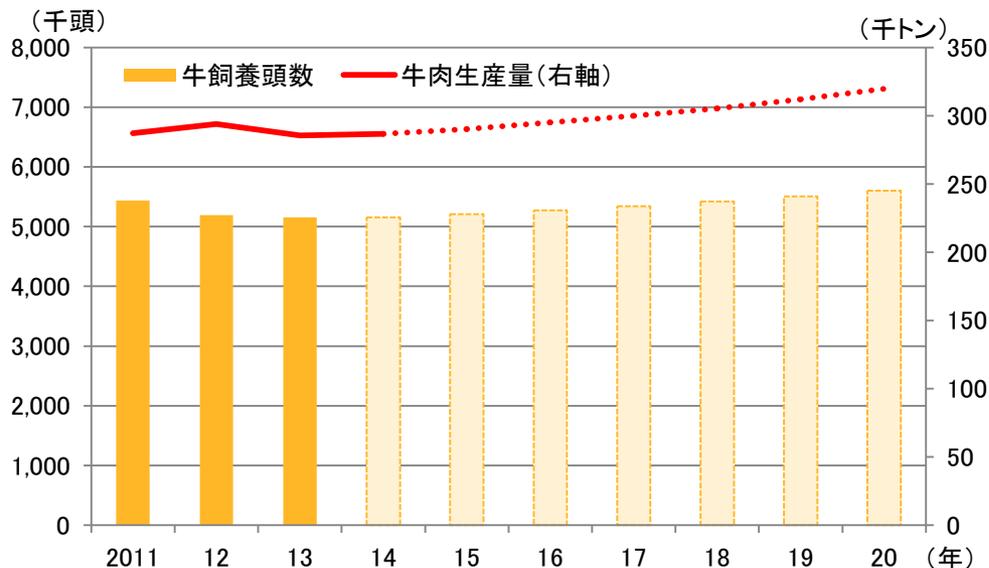
- 2014年に策定された方針で、上記戦略やこれまでの施策を補完
- ASEAN自由貿易協定（AFTA）やTPPを見据え、付加価値の向上によって、国際競争力を持つ品質の畜産物生産を目指す
- 主に国全体で土地の集約や効率的な生産・流通組織の形成を促進  
⇒畜産物の質的向上を目指す

### 3 ベトナムの牛肉生産

### 畜産開発戦略2020

- 2020年の目標値は、牛飼養頭数が560万頭（13年比8.6%増）、牛肉生産量が32万トン（同12.3%増）

畜産開発計画2020における増産目標  
(肉用牛)



資料：MARD資料よりalic作成  
注：2014年以降は目標値

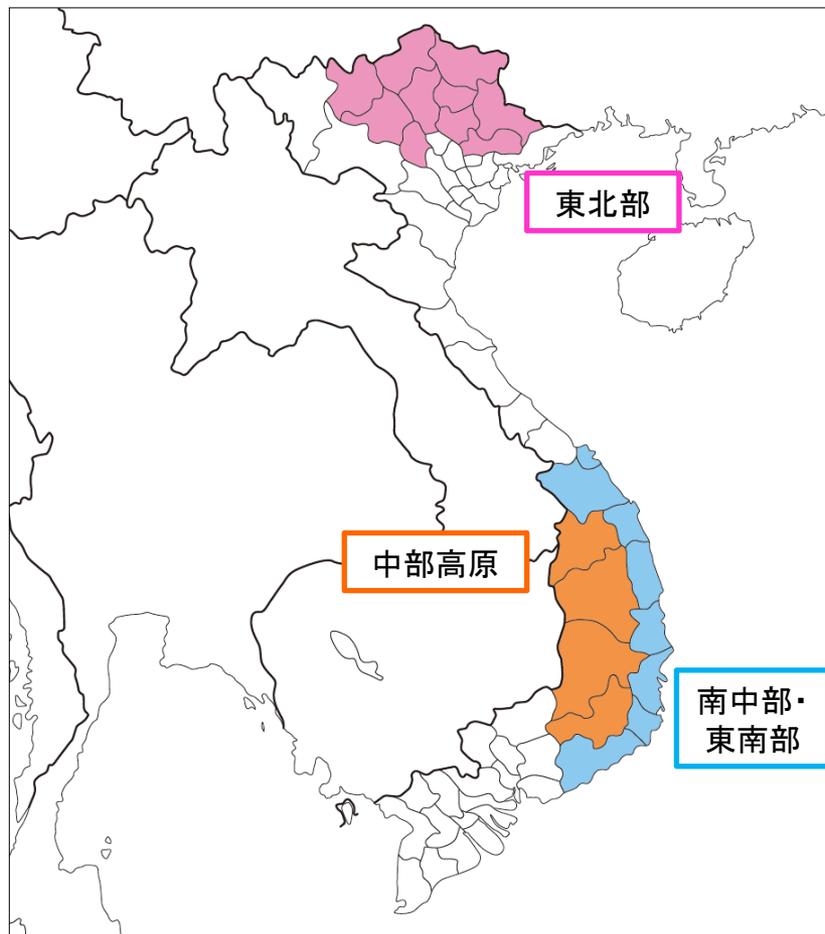
#### 主な増産対策

- ・もと牛導入に係る経費の補助や人工授精（AI）の普及  
⇒外国種やゼブー種との交雑割合を高める
- ・疾病リスクの高い地域における予防接種の実施
- ・牧草種子の供給
- ・融資に対する利子補給

# 3 ベトナムの牛肉生産

## 畜産業再編計画

畜産業再編計画で推進される肉用牛生産地域



### 肉用牛部門の主な対策

- 飼料原料が豊富で、畜産を発展させるポテンシャルの高い地域に移行  
 ⇒中部高原や南中部などに企業経営による大規模農場を設立  
 ⇒環境対策のため生産拠点を人口密度の低い丘陵地、山岳地に移行
- と畜場の改築・新築も行い、生産から加工・販売までのインテグレーションを推進  
 ⇒付加価値向上を目指す

資料：MARD資料を基にalic作成

### 3 ベトナムの牛肉生産

#### 国内生産の課題

##### 生産の課題

- 生産性が低い  
もと畜、給与飼料の質がまだ低い
- 家畜疾病（口蹄疫など）が発生するリスクが高い  
小規模農家が分散しているため、管理が困難

##### 政策の課題

- 畜産行政の実務が適切に実施されにくい  
地方によっては畜産専門部署が設置されていない省もあり、専門知識を有した職員が十分に配備されていない
- 肉用牛部門の予算配分額が少ない  
優先順位は、豚、家禽、乳用牛の順に高い

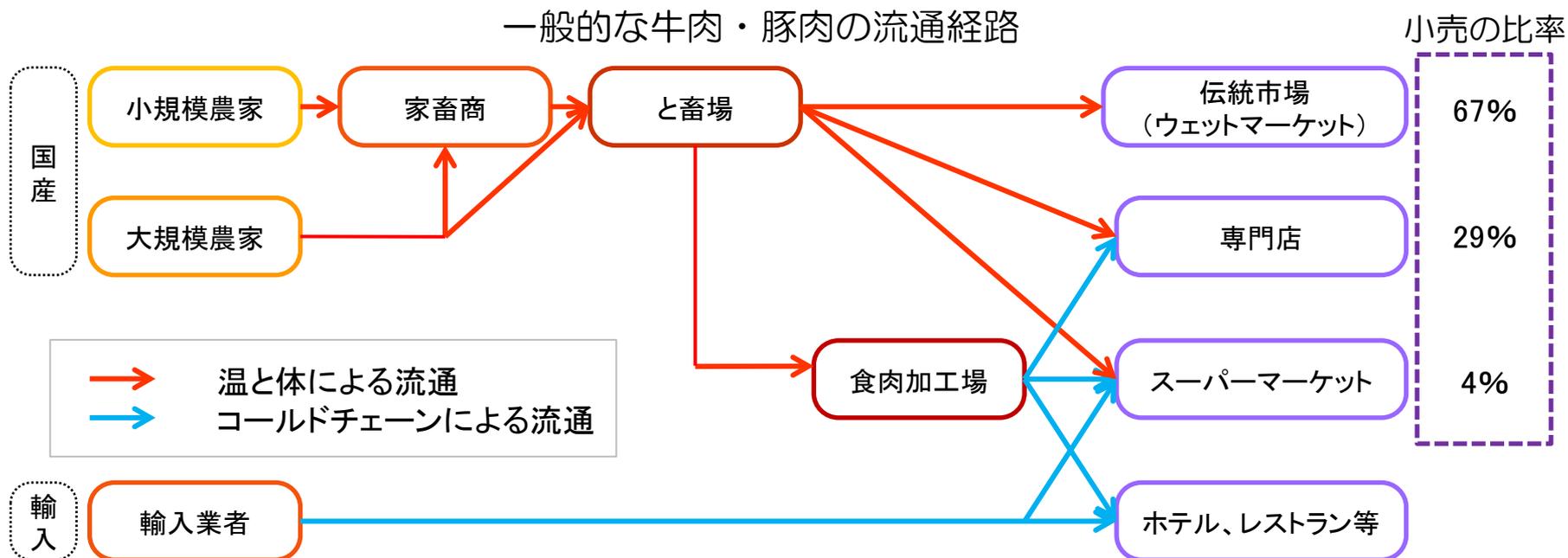
計画通りに増産が進まず、飼養頭数は減少傾向に

# 4 ベトナムの牛肉流通

## 牛肉・豚肉の流通体系

- 温と体による流通・販売が主流
- 深夜から早朝にかけてと畜されたものが店頭に並び
- 消費者が生鮮食肉を重視するため、伝統市場での購入が根強い
- 輸入牛肉がスーパーなどに陳列される量は比較的少ない

一般的な牛肉・豚肉の流通経路



資料：流通体系は聞き取り、小売の比率はEuromonitor Internationalよりalic作成  
 注：比率は、2013年の売上高で算出。

# 4 ベトナムの牛肉流通

## 牛肉の購入スポット

伝統市場（ハノイ）



伝統市場（ハノイ）

スーパーマーケット（ホーチミン）



高級スーパーマーケット（ハノイ）

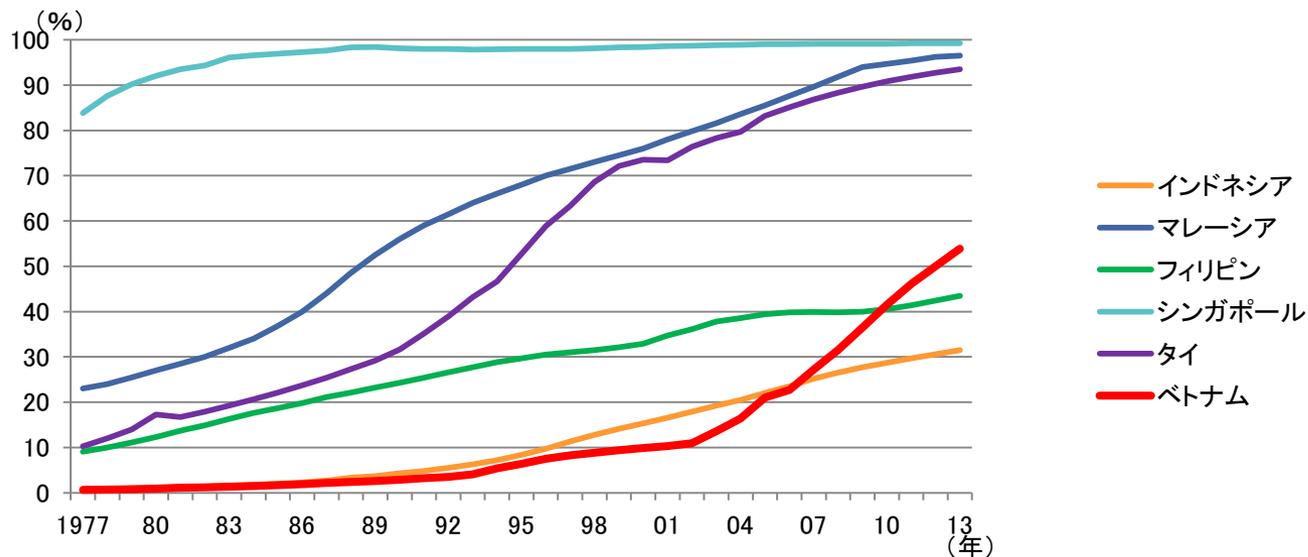


# 4 ベトナムの牛肉流通

## 冷蔵庫の普及

- 中間所得層の台頭により、冷蔵庫など耐久消費財の購入が増加
- スーパーマーケットの普及や共働きなどのライフスタイルの変化に伴い、食肉がまとめ買いされるケースも増加  
⇒生鮮牛肉から冷凍牛肉市場の拡大が期待

ASEAN6カ国の一般家庭における冷蔵庫普及率の推移



資料：Euromonitor International

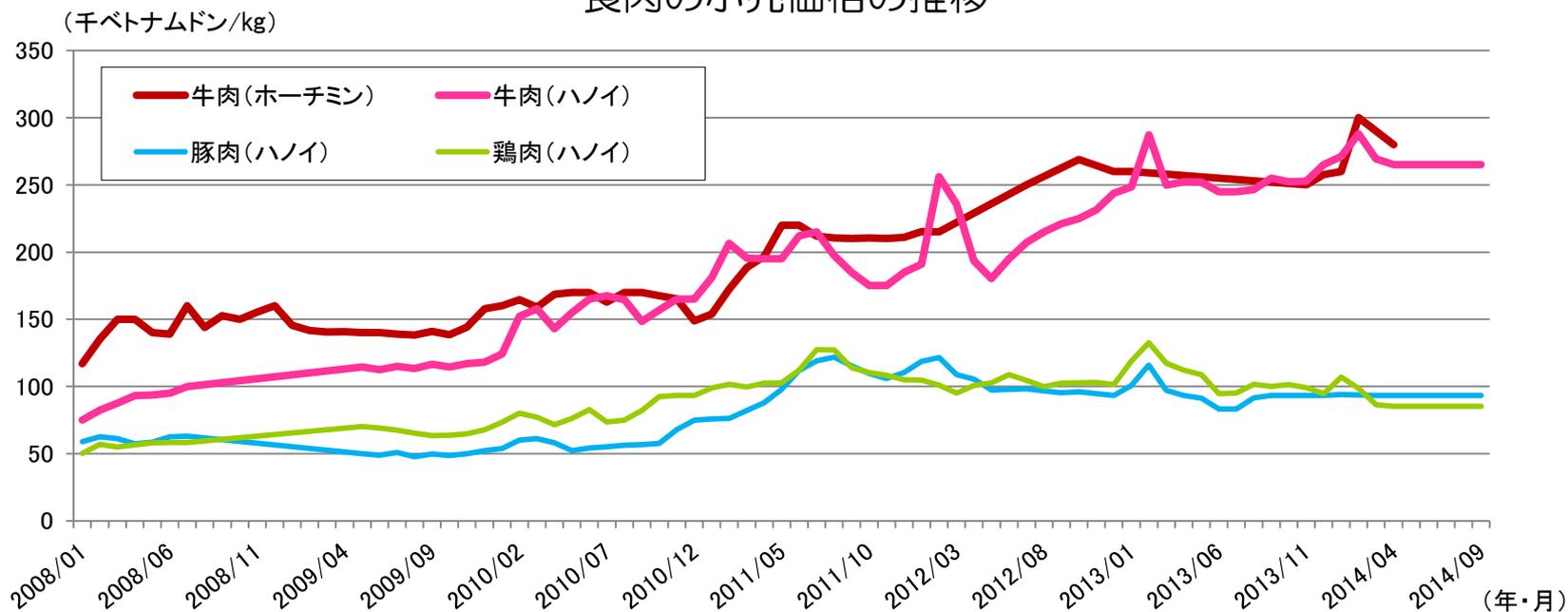
注：冷凍庫付のものを含む

# 4 ベトナムの牛肉流通

## 牛肉の価格動向

- 国産の牛ヒレ肉は、1 kg当たり約28万ドン（1,400円）  
⇒需要の増加により、この5年間で価格は2倍に上昇  
⇒豚肉・鶏肉の3倍の価格

食肉の小売価格の推移



資料：MARD「市場価格情報」

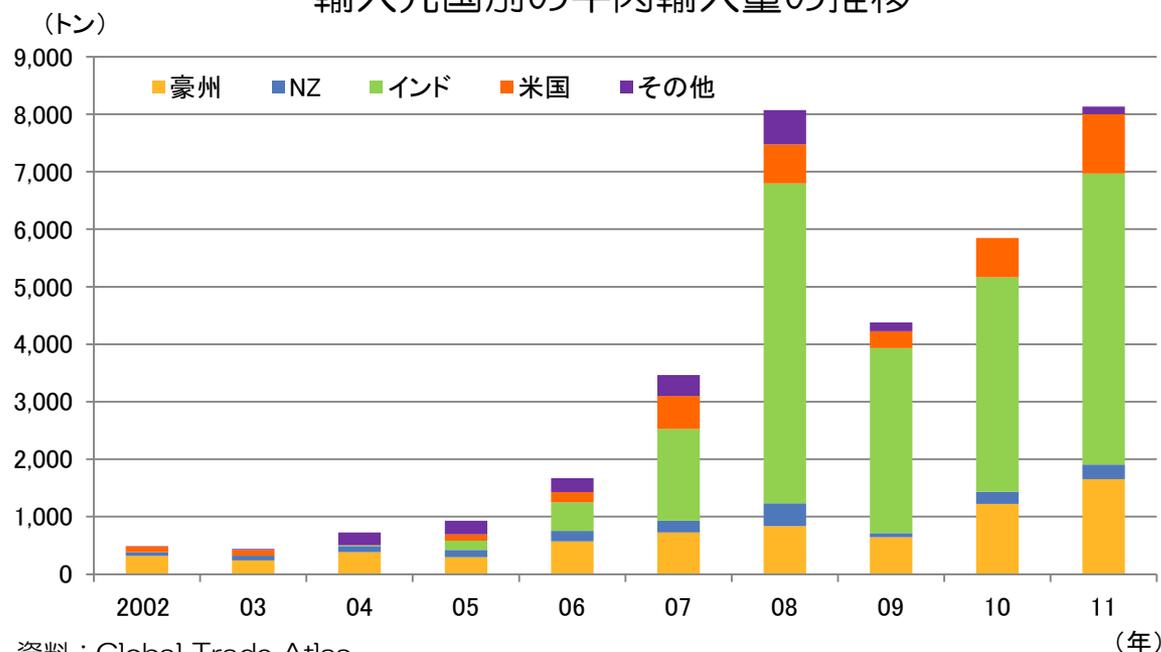
注：牛肉はヒレ肉価格、豚肉および鶏肉は全部位の平均価格

# 5 ベトナムの牛肉輸入

## 牛肉の輸入量

- 輸入量は年々、増加傾向
- 主要輸入先国は、インド（水牛肉）、豪州、米国、NZなど
- コールドチェーンが未発達なため、輸入牛肉の9割が冷凍  
⇒冷蔵牛肉は豪州、NZからの輸入が多い
- 牛肉（骨なし）の関税率は14%  
⇒日本に対しては日ASEAN包括的経済連携協定により11%（2014年）

輸入先国別の牛肉輸入量の推移



資料：Global Trade Atlas

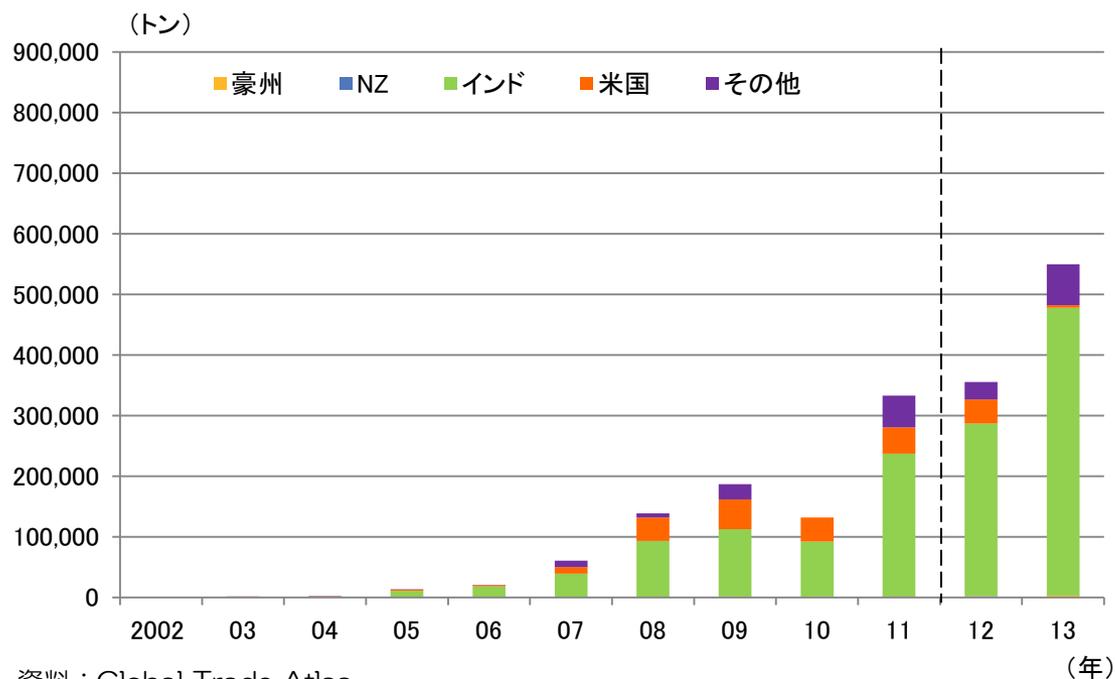
注：HSコード0201、0202

# 5 ベトナムの牛肉輸入

## 牛肉の輸入量

- ベトナム側の輸入統計は、輸出国側の輸出統計と乖離がある
- 特にインド産牛肉の輸出量が急増しているが、ベトナム国内で消費されているかは不透明
- 牛肉輸入量は2012年以降も増加傾向にある

主要輸出国のベトナム向け牛肉輸出量の推移



資料：Global Trade Atlas  
注：HSコード0201、0202

# 5 ベトナムの牛肉輸入

## 輸入牛肉の用途

輸入牛肉の7割がホーチミン、3割がハイフォン・ハノイ経由で国内に流通

- 豪州、米国产 ⇒ 大部分が外食産業（ホテル・レストラン）向け。  
テーブルミートは富裕層向けスーパーマーケットに。
- インド産 ⇒ 単価が安いいため、国産牛肉の代替に。  
加工向けとなることも多い。

### 輸入牛肉の販売価格

(単位：ベトナムドン/kg、円/kg)

原産国	販売部位	小売価格	
		ベトナムドン	日本円
米国	テンダーロイン(T-Bone)	560,000	2,800
	ブリスケット	390,000	1,950
	ショートプレート	250,000	1,250
	WAGYU (SRF極)	ASK (600,000~ 1,250,000)	3,000~6,250
豪州	テンダーロイン	395,000	1,975
	ストリップロイン	375,000	1,875
	WAGYUリブアイ(SB7)	2,750,000	13,750
日本	リブアイ	3,500,000	17,500
	イチボ(トップサーロイン)	3,450,000	17,250
	肩ロース芯(チャックアイロール)	2,900,000	14,500

資料：ThitboNhapkhu.com (<http://thitbonhapkhu.com/TrangChu.aspx>)

注：100ベトナムドン=0.5円

アクセス日：2014年10月14日

**THỊT BÒ TƯƠI**

- Thân Nội Bò Úc Tươi (Hàng Cao Cấp- Bò Đức, Tơ, Thiên)
- Thân Vai Bò Úc Tươi (Hàng cao cấp-Bò Đức, Tơ, Thiên)
- Thân Vai Kobe Úc SB5
- Thân Vai Kobe Úc SB7
- Thân Nội Kobe Bò Úc SB5
- Thân Nội Bò Úc Tươi
- Thân Vai Bò Úc Tươi



Đơn giá: 780.000 đ/1kg



Đơn giá: 580.000đ/1kg



Đơn giá: 2.550.000 đ/1kg



Đơn giá: 2.950.000 đ/1kg



Đơn giá: 2.750.000 đ/1kg

**THỊT BÒ NHẬT BẢN**

- Thân Vai Bò Kobe Nhật
- Thân Ngoại Bò Kobe Nhật
- Cách Nuôi Bò Kobe Nhật Bản
- Thân Nội Bò Kobe Nhật
- Thịt Nạc Vai Kobe Nhật
- Thịt Bò Kobe Nhật Bản



Đơn giá: 3.500.000 đ/ 1kg



Đơn giá: 3.450.000 đ/1kg



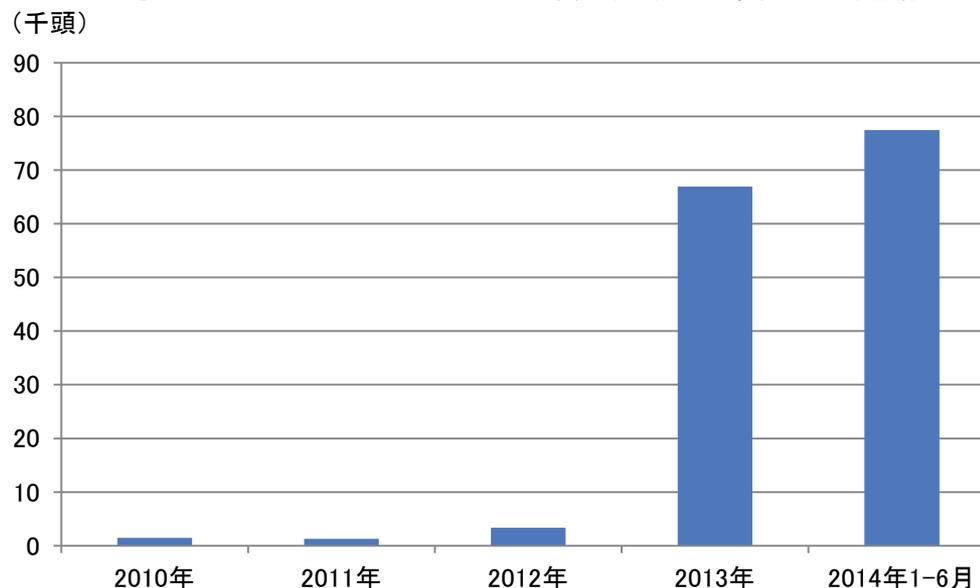
Đơn giá: 3.700.000 đ/1kg

# 5 ベトナムの牛肉輸入

## 生体牛の輸入頭数

- 生体牛は、豪州、タイ、ラオス、カンボジアなどから輸入
- 豪州は2013年から輸入先として定着し、2014年も増加  
⇒タイが2012年から生体輸出を制限したため、その代替として豪州が浮上  
⇒豪州は最大の輸出先のインドネシアが2012年に輸入制限を行ったため、その代替市場としてベトナムを選定

豪州のベトナム向け生体牛輸出頭数の推移



資料：豪州統計局（ABS）

注：乳牛を含む。

# 5 ベトナムの牛肉輸入

## 生体輸入が増加した理由

- 豪州産は国産より柔らかく、味もよい
- 生体牛価格は、国産とほぼ同等  
⇒豪州産は国産より歩留まり・肉質が優れるため、販売時の利幅が大
- と畜後の副産物利用により関連産業が潤う（皮革はベトナムの主産業）

### 生体牛の販売価格（2014年3月）

（単位：ベトナムドン/kg、円/kg）

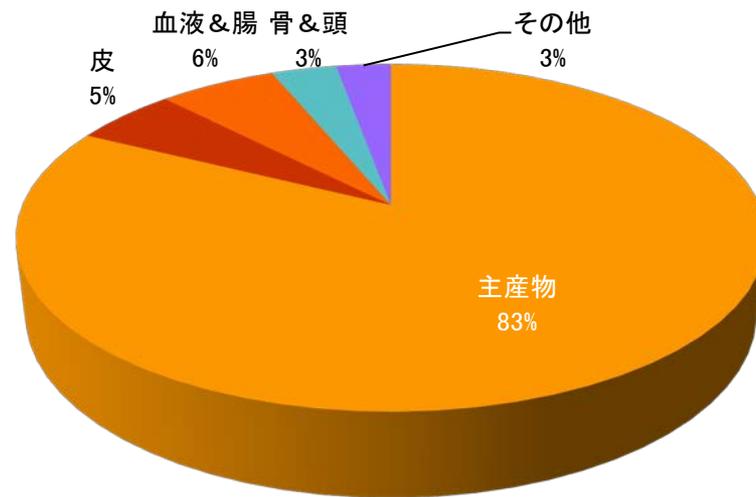
	販売価格	
		日本円換算
国産	60,000	300
豪州産	58,000～ 75,000	290～375

資料：ベトナム畜産協会からの聞き取りを基にalic作成



豪州産生体牛をと畜するために導入されたスタンニング装置（ホーチミン郊外）

### と畜場の収益構造 （1頭当たり、2010～2012年平均）



販売収入：1486万ドン（約7万4千円）

資料：南ベトナム農業科学研究所（IAS）

注1：南中部のサンプリング調査結果

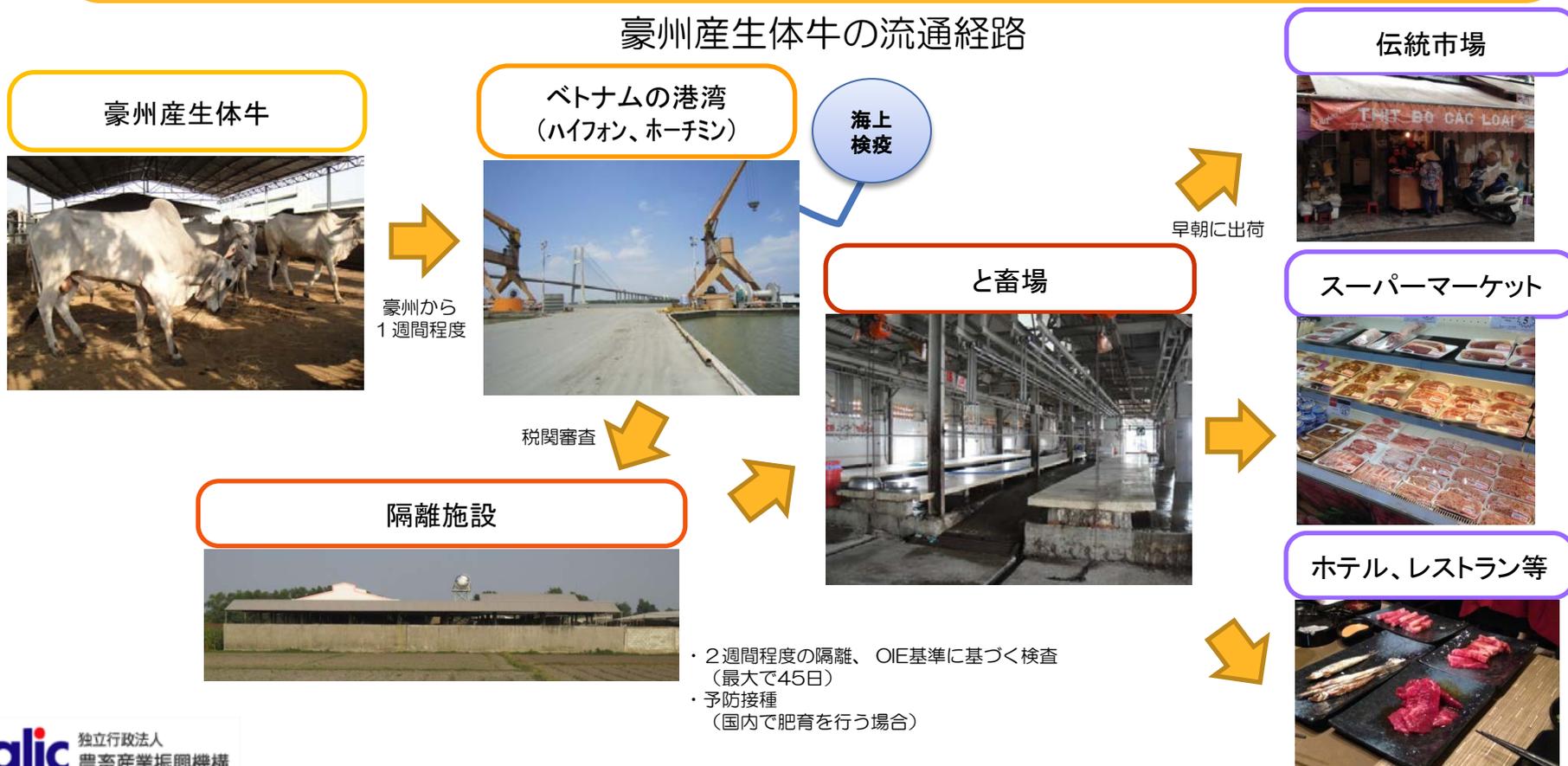
注2：と畜牛1頭300kg換算

# 5 ベトナムの牛肉輸入

## 豪州産生体牛の流通経路

- 生体牛は、輸入後肥育されることは少なく、すぐにと畜
- 豪州産生体牛を輸入するには、隔離施設やと畜場において、豪州政府が定めるアニマルウェルフェアの基準（ESCAS）を満たす必要
- と畜後の牛肉は、国産牛肉と同様に伝統市場からホテルまで幅広く流通

### 豪州産生体牛の流通経路



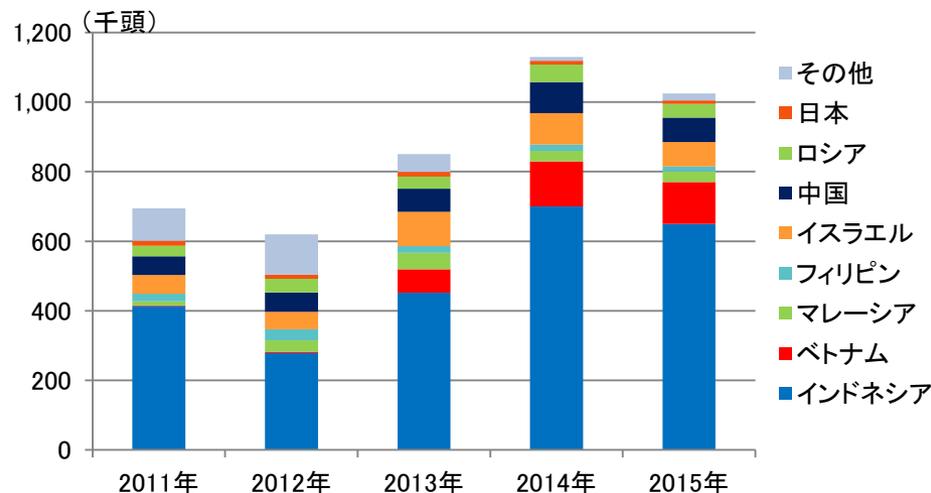
## 6 まとめ～今後の見通し

- ベトナムでは、人口や所得の増加を背景に牛肉需要が拡大。特に外資系外食産業の進出が牛肉消費を牽引。
- 国内生産は、構造的な生産基盤や政策実行面の弱さもあり、増加する需要に供給が追いつかない可能性。
- 牛肉輸入量は増加するも、価格や流通面のメリットから当面は生体での輸入が主体。
- こうした中、国産牛肉の代替となる豪州産生体牛もインドネシア等、他国とも競合することから、今後の輸入頭数の確保が課題に。



牛肉価格は堅調に推移しており、  
今後は高止まりする可能性

豪州産生体牛の輸出見通し



資料：ABS、豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）

注1：乳牛を含む。

注2：2014年、2015年は予測値

# ご静聴ありがとうございました



本情報は、情報提供を目的とするものであり、取引・投資判断の基礎とすることを目的としていません。本資料の正確性の確認等は、各個人の責任と判断でお願いします。提供した情報の利用に関連して、万一、不利益が被る事態が生じたとしても、ALICは一切の責任を負いません。



情報誌【畜産の情報】

<http://lin.alic.go.jp/alic/month/domefore/index2.htm>